

当MMQCニュースは三男が入社して彼の仕事の一つとして書き始め、そのPDFをHPに張り付ける事から始めました。10年の時間で三男も大きく成長して遅くなっています。2025年事業承継を目標にこれからも継続して行きます。 栩野

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「柔軟な思考」と「執着心」

右掲は、今年のノーベル化学賞を受賞された吉野彰さんです。リチウム・イオン電池の基本を発見され事業化が実り、今日、いろんな分野で小型軽量の充電電池として広く利用されており、日産では太陽光発電の10年間の固定価格買取制度(FIT)の恩恵が切れる啐FIT家庭に、発電したエネルギーをEV車のバッテリーに蓄積して家庭用電力として自家使用を呼び掛けるほどにエコに絡む応用分野が広いので期待度が高いものです。EV車のバッテリーは40~62Kwhと大容量なので、家庭の使用量をクリアしているので、太陽光発電が4Kwh程の能力があれば、外部からの電力供給がなくなるとも連続して生活が可能になる計算になっています。



吉野さんはTBS系番組のインタビューで研究者として重要な事は、「柔らかい頭と真逆な執着心」と答えています。吉野さんは旭化成の社員ですから、研究の先、GOAL(製品)を開発実用が本来的なミッションなのですが、GOALまでの道のりは試行錯誤の繰り返しなのです。一言に「繰り返し」と言いますが、チャレンジした時に「壁」が立ちただかるので、誰もが跳ね返されるのですが、この壁にぶつかった際に、柔らかい頭で要因を分析して新しい可能性を見つけ出して実験するという繰り返しを行うという「執着心」が伴うことが大切なのです。多くの偉人が「あきらめた時が失敗」とおっしゃっているのを思い起こします。

また、当初狙っていたGOALから違ったGOALになったとの事ですが、ここからは私の推測ですが「縁」としていろんな方との交流の中で「運」よく大掃除で一つの論文に出会い「ツキ」として実験に成功し特許になったという「縁・運・ツキ」の基本があり、それを可能にしたのが「柔軟性」と「好奇心」だったように思います。私は

「素直プラス発想勉強好き」と「時流適応力相応一番主義」

故船井幸雄先生の「素直プラス発想勉強好き」という教えを思い出しました。これは、「時流適応力相応一番主義」とともに良い経営者の2つの必須要素として心に残っています。

吉野さんのようなノーベル賞に輝く大きな成果は旭化成という強力なバックボーンがあつて可能になったのですが、それでも「力相応」という事がポイントではなかったかと思えます。研究のGOALを変えて行く訳ですが、その為には研究開発費が嵩む訳です。旭化成が可能な範囲でGOALを動かしたからリチウム・イオン電池に至ったとも考えられるのです。つまり、どんな会社でも「力相応」の「一番」を追究する事が重要な事なのです。弊社のような存在でも「Faxちらし・3段活用マーケティング」として企業なら100%普及しているFaxにターゲットをあて、コンテンツづくりで独自性を出して今日に至っています。

一般のビジネスにおいても「素直プラス発想勉強好き」な特性がトップとして重要な素質になります。「素直」・人の話を聞く姿勢、「プラス発想」・人の話に対して積極的になれる性格、「勉強好き」・コツコツと続けれる事と分解する事ができます。「うちは・・・」と否定的になる方が多く、「やっぱりダメや・・・」とネガティブになりボヤク方、そして、「おいしくない」とすぐに諦める方が多いのです。これでは、「縁・運・ツキ」から見放されてしまいます。やはり、ポジティブな方が成功のチャンスが多いと思えます。

人生において、吉野さんのように明るく前向きに過ごす事が「縁・運・ツキ」を呼び込むのだと思えます。企業経営も社員の活性化には「明るい」という事と常に「前向き」でチャレンジする事が欠かせないのです。「脱マンネリ」と言いますが失敗を恐れなくて「力相応」にチャレンジして、少々の事にはめげずにOODA(状況対応)的にGOALを変えてでも成し遂げるという粘りが重要だと実感しています。

ワンポイント・アドバイス

OODAという言葉を書く機会が多くなりました。不確定な時はPDCAでは対応し切れないのです。状況を見ながら機敏に舵を切ることが求められているのです。悪く言うと「朝礼暮改」になってしまいますが、前向いているという信念があれば、機敏に舵を切る勇気が重要なのです。狼狽えて「朝令暮改」では周囲の賛同を得られないので、そんな時は、少し落ち着くまで待つ事!

